



下都賀総合病院消化器科  
江田 証先生

# 体のほなし

## 日本消化器病学会 奨励賞受賞記念連載⑨



第75回

### 肝臓の病気について

今回は、B型肝炎、C型肝炎による慢性肝炎、肝硬変についてお話しします。慢性肝炎の恐ろしい所は、ほとんど無症状で病状が進行することです。「慢性肝炎」が長く続くと肝臓が固く萎縮して「肝硬変」に進み、さらに「肝細胞癌」に移行することもあるのです。症状が出て病院に来られた時にはすでに進行した肝硬変で、肝臓癌も大きくなっていった、などといったことが日常に見受けられます。

対策として、まず**①感染を早期に発見**しましょう。40歳以上の方は、必ずC型肝炎健診を受け、検診などで肝機能障害を指摘されたら、必ずB・C型肝炎ウイルスに感染していないかまで調べておくことが大切です。

**②肝機能異常を指摘されたら超音波検査（エコー）を受けましょう。**これが一番大切なことなのですが、「肝臓癌があるのかどうか」や、「今現在の肝臓の状態が、慢性肝炎の段階にあるのか、すでに肝硬変になっているのか」といったことは、採血結果だけではわからない、ということ。肝炎ウイルスに感染している方は、超音波検査で定期的に消化器専門医に診てもらい、肝臓癌を早期発見することが何よりも大切です。

**③GPT（ALT）値を下げましょう。**肝臓を保護する飲み薬や注射、インターフェロン（ウイルスを消す薬）などを使った治療でしっかりと肝臓の炎症を抑えましょう。炎症を抑え肝硬変への進行を予防し、肝臓癌ができるのを抑えることが目標です。こ

の度、難治性C型肝炎患者用に、効果の高い新しいインターフェロン治療が登場し、当院でも使用していますので御相談ください。

**④「C型肝炎患者全体は、健康人よりも長生きしている」と言う事実をご存じですか。**これは、主治医と何でも相談できる良い関係を持ち、肝炎を治療してゆく過程の中で、肝臓以外の病気（胃癌や大腸癌等）を早期に見えたり、高血圧、高脂血症、糖尿病などの生活習慣病を治療したりしているためではないか、と言われています。この事実を、時間と手間を惜しまずに自らの体を管理している患者様の努力と現代医学の勝利と言え、大変勇気づけられる事実です。不幸にもウイルスに感染してしまった患者様の無念さは計り知れないものだと思いますが、このパワーのある統計結果を胸に、**勇気をもって治療をしていきましょう。**

「救命救急は非常に重要。でも内科医としてもっと大切なことは、病気をそこまで悪化させずに予防することだ」。十数年前、ER（自治医大救急部）に勤務していた頃、痛感したことです。

昼夜問わず、県内全域から心肺停止状態、多発外傷など重症の患者さんが運び込まれ、気管内挿管、人工呼吸、カウンスターションなどの救急救命処置、緊急手術、病棟処置に追われる毎日でした。日中は通常通り働き、夜は三日に一度の当直。当直の日は一睡もせず、当直明けもみな遅くまで治療に頑張っていました。多くの悲惨な現場を経験しましたが、その中には十分に治療していれば避けられた事例も多く見受けられました。病気は早期発見し、重症化を予防することが何よりも大切なのです。

### 「高齢者交通事故防止対策」継続実施中（7月1日から12月31日まで）

栃木警察署

#### ●事故実態

- ア 歩行中・自転車乗用中の死亡事故 (57%)
- イ 原付運転中の死亡事故 (18%)
- ウ 高齢者の死亡事故非市街

#### ●歩行者・自転車の方に

- ア 車が見えたら、通り過ぎるまで横断しない
- イ 斜め横断や車の直前・直後の横断は危険です
- ウ 自宅付近で多発！「通り慣れた道こそ危険」の意識を
- エ 夜間外出時明るい服装や反射材を活用しましょう
- オ 交差点では、一時停止し、左右の安全確認をしましょう